

関西国際空港 第2滑走路オープン ～新しい歴史のはじまり～

関西国際空港用地造成(株)
代表取締役専務

古土井光昭



2007年8月2日、関西国際空港の第2滑走路がオープンし、日本ではじめて国際空港のグローバルスタンダードというべき「複数の4,000m級滑走路+24時間運用」の空港が実現します。

関空2期事業は1996年6月の関西国際空港用地造成(株)の設立にはじまり、同年7月の用地造成事業着工から2007年6月の滑走路等の竣功まで11年の年月と約9,000億円の事業費で限定供用にこぎつけました。完全供用を目指して、用地造成事業は今後も継続的に実施し、空港施設は需要に即座に対応できるように適切な整備を図る必要があります。

8月2日の第2滑走路オープンは多くの関係者の汗と涙の結晶でもあります。この輝かしい日を見ていただきたかった方々を何人も挙げることはできませんが、幸せなプロジェクトは、人と時とを得て進行するものだな、との感を禁じ得ません。

2期の用地造成事業は1期を大幅に上回る大水深・超軟弱地盤、大量急速施工でしたが、大量の埋立土砂の安定的調達が大阪・兵庫・和歌山の三府県のご協力によって円滑に進んだ上、工事に従事したサンドドレーン船などの大型作業船の大型化・自動化が進み、「人は眠るが、機械は休ませるな」の方針で夜間工事を含め、一日20時間の稼働によく耐えました。

また、GPSやナローマルチビームを用いた深浅測量機など最新の技術の積極的採用とともに徹底した情報化施工を実施しました。2期は60年間で約18mの沈下が予測されていますが、埋立段階から薄層均一な施工を実施し、埋立地上部の地盤改良も大型振動ローラーで60cmまで薄くした層を幾層にも積み重ね、均質に締固めた結果、厚くて強固な殻に覆われた埋立地となり、不同沈下の発生を少なくできると考えています。

「早く、安く、より良く」と「1期に学び、1期を超える」ことを目標に努力しましたが、ほぼ満足すべき成果を得たと思います。用地造成の順調な仕上がりを受け、滑走路等の空港施設も、舗装厚さを大幅に見直し、灯器の一体施工等の優れた技術を導入し、順調に整備されました。

8月2日の第2滑走路のオープンは、新しい関西国際空港の第一歩であり、アジアのゲートウェイとして、国際・国内の航空ネットワークを結ぶ拠点空港として、24時間運用を生かした国際貨物ハブ空港としての新しい歴史のはじまりです。これまで関西国際空港を支えていただいた関係者の方々の変わらぬご厚情と、ご支援に心から感謝申し上げます。